



2024年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年11月14日
東

上場会社名 株式会社エクサウィザーズ 上場取引所
コード番号 4259 URL <https://exawizards.com/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 春田 真
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員コーポレート統括部長 (氏名) 前川 智明 (TEL) 03-6453-0510
四半期報告書提出予定日 2023年11月14日 配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第2四半期の連結業績(2023年4月1日~2023年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第2四半期	3,388	29.2	△534	—	△542	—	△768	—
2023年3月期第2四半期	2,622	33.0	△287	—	△285	—	△272	—

(注) 包括利益 2024年3月期第2四半期 △785百万円(—%) 2023年3月期第2四半期 △284百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第2四半期	△9.46	—
2023年3月期第2四半期	△3.36	—

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第2四半期	9,757	4,725	47.7
2023年3月期	7,939	6,618	82.4

(参考) 自己資本 2024年3月期第2四半期 4,655百万円 2023年3月期 6,540百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2024年3月期	—	0.00	—	—	—
2024年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日~2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		EBITDA	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
通期	8,500	52.0	△290	—	600	—

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 有
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 1社(社名) 株式会社スタジアム、除外 0社(社名) —

2023年6月30日において、株式会社スタジアムの株式の100%を取得したため、第1四半期連結会計期間より連結範囲に含めています。なお、株式会社スタジアムは当社の特定子会社に該当しています。

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

- (4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年3月期2Q	83,977,900株	2023年3月期	83,383,800株
② 期末自己株式数	2024年3月期2Q	3,111,700株	2023年3月期	100,300株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2024年3月期2Q	81,263,017株	2023年3月期2Q	81,127,317株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

● (将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) キャッシュ・フローに関する説明	4
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	12
(企業結合等関係)	14

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結累計期間の末日現在において判断したものです。

(1) 経営成績に関する説明

当社グループは、「AIを用いた社会課題解決を通じて、幸せな社会を実現する」とのミッションの下、AIプラットフォーム事業においては、顧客課題解決を通じて、様々な業界の産業・社会課題を発見し、その革新を実現し続けることをめざして事業を推進しています。また、AIプロダクト事業においては、広範な顧客向けに、最小限の追加調整で即座に業務で活用可能なAIソフトウェアを提供し、社会課題を解決することをめざして事業を推進しています。

(経営成績)

売上高

当第2四半期連結累計期間における売上高は3,388百万円(前年同期比+29.2%)となりました。これは主に、子会社化した株式会社スタジアムの業績を当第2四半期連結会計期間より連結を開始したこと及びAIプロダクト事業で当社サービスの導入数が増加したことによるものです。

売上原価、売上総利益

当第2四半期連結累計期間における売上原価は1,622百万円(前年同期比+43.3%)となりました。これは主に、売上原価となる人件費等及びソフトウェアの減価償却費が増加したことによるものです。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上総利益は1,766百万円(前年同期比+18.5%)、売上総利益率は52.1%となりました。

販売費及び一般管理費、営業損益

当第2四半期連結累計期間の販売費及び一般管理費は2,301百万円(前年同期比+29.4%)となりました。これは主に、販管費となる人件費等が増加したことによるものです。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の営業損失は534百万円(前年同期は287百万円の営業損失)となりました。

営業外損益、経常損益

当第2四半期連結累計期間の営業外収益は2百万円となりました。営業外費用は10百万円となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の経常損失は542百万円(前年同期は285百万円の経常損失)となりました。

特別損益、親会社株主に帰属する四半期純損益

当第2四半期連結累計期間の税金等調整前四半期純損失は787百万円(前年同期は272百万円の税金等調整前四半期純損失)となりました。

特別損失として、下記に記載する減損損失の合計として203百万円計上しました。また、第1四半期連結会計期間に当社の在外研究開発拠点の清算に伴う関係会社整理損として42百万円計上しました(2023年5月11日開示「子会社の解散に関するお知らせ」参照)。

また、当第2四半期連結累計期間の親会社株主に帰属する四半期純損失は、法人税等の合計として1百万円をプラスに計上したことにより、768百万円(前年同期は272百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失)となりました。

(減損損失の計上について)

当第2四半期連結会計期間において、AIプロダクト事業に属する連結子会社が保有するソフトウェア資産及び工具、器具備品について、減損損失として164百万円計上しました。また、当社が保有する一部のソフトウェア資産が遊休資産となったため、減損損失として38百万円計上しました。

(法人税等調整額の計上について)

法人税等調整額は、当第2四半期連結会計期間において、顧客関連資産の減価償却に伴う繰延税金負債の取り崩しとして10百万円、オフィス移転に伴う資産除去債務の取り崩しにより9百万円をそれぞれ計上したことにより、当第2四半期連結累計期間で△19百万円となりました。

(セグメント業績)

AIプラットフォーム事業

当第2四半期連結累計期間においては、引き続きAIプロジェクトによるイノベーション創出を多数の大手企業と取り組んでいます。AI・DX支援に関する企業の強いニーズも後押しとなり、取引社数が増加しました。一方で、案件稼働にかかる外注費が増加しました。

この結果、売上高は2,392百万円(前年同期比+3.9%)、売上総利益は1,298百万円(前年同期比-6.3%)、売上総利益率は54.3%、営業利益は599百万円(前年同期比-10.4%)、売上高に占める長期継続顧客(注)売上の比率は69.7%となりました。

(注) AIプラットフォーム事業において、当社が4四半期以上連続で契約している顧客

AIプロダクト事業

当第2四半期連結累計期間においては、既存プロダクトの販売拡大に加え、AIプラットフォーム事業によって得られた知見をもとに、生成系AI等の活用をはじめとした新たなサービス開発にも取り組んでまいりました。

DX AIプロダクト群では、企業のDX人材の発掘・育成のための「exaBase DXアセスメント&ラーニング」を中心に導入企業数が増加しました。ソーシャルAIプロダクト群では、「CareWiz トルト」がパートナー企業との協業により販売拡大が進みました。

その中で、これらの需要に応じていくための採用にかかる採用費や広告宣伝費等が増加しました。また、組織拡大に伴う人員増加、プロダクトの開発に係る先行投資に伴い、売上原価の人件費等が増加しました。

この結果、売上高は500百万円(前年同期比+56.1%)、売上総利益は230百万円(前年同期比+121.8%)、売上総利益率は46.1%、営業損失は224百万円(前年同期は187百万円の営業損失)となりました。

その他サービス事業

当セグメントは、AIプラットフォーム及びAIプロダクトの事業モデルには現時点で該当しないサービス等から構成されます。当第1四半期連結会計期間に子会社化した株式会社スタジアムの事業・業績などが含まれます。

当第2四半期連結累計期間においては、株式会社スタジアムにて受注済み案件を中心に堅調に推移しました。また、当社のAIプロダクト事業のサービスの拡販について協業体制が進展しました。

この結果、売上高は495百万円、売上総利益は245百万円、売上総利益率は49.6%、営業利益は26百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は9,757百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,817百万円増加いたしました。これは主に、株式会社スタジアムの株式取得に伴う取得原価配分により顧客関連資産が1,817百万円増加したことによるものであります。

負債

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は5,031百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,710百万円増加いたしました。これは主に、株式会社スタジアムの株式取得に伴い長期借入金が2,400百万円、また、取得原価の当初配分額の見直し等により繰延税金負債が466百万円増加したことによるものであります。

純資産

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は4,725百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,893百万円減少いたしました。これは主に、自己株式取得により1,169百万円、親会社株主に帰属する四半期純損失768百万円を計上したことによるものであります。

(3) キャッシュ・フローに関する説明

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ1,136百万円減少し、4,094百万円となりました。各キャッシュ・フローの状況とその要因は以下のとおりです。

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは96百万円の支出(前年同期は42百万円の収入)となりました。これは主に、減価償却費237百万円、減損損失203百万円、未払金及び未払費用の増加196百万円等の増加要因があった一方で、税金等調整前四半期純損失787百万円等の減少要因があったものです。

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは2,521百万円の支出(前年同期は423百万円の支出)となりました。これは主に、連結範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出1,870百万円、無形固定資産の取得による支出428百万円等によるものです。

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは1,480百万円の収入(前年同期は44百万円の収入)となりました。これは主に、長期借入れによる収入2,700百万円等の増加があった一方、自己株式の取得による支出1,165百万円による減少等があったものです。

(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年3月期の業績予想については、2023年8月14日に開示した連結業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,231	4,094
売掛金及び契約資産	1,032	1,146
その他	108	172
流動資産合計	6,372	5,413
固定資産		
有形固定資産	165	184
無形固定資産		
のれん	160	921
顧客関連資産	—	1,817
ソフトウェア	954	933
その他	0	0
無形固定資産合計	1,114	3,672
投資その他の資産		
投資有価証券	—	181
その他	287	305
投資その他の資産合計	287	486
固定資産合計	1,567	4,343
資産合計	7,939	9,757
負債の部		
流動負債		
1年内返済予定の長期借入金	10	300
未払金	225	509
未払費用	304	428
未払法人税等	48	41
契約負債	110	287
賞与引当金	15	—
その他	200	226
流動負債合計	914	1,792
固定負債		
長期借入金	300	2,700
退職給付に係る負債	66	60
資産除去債務	39	12
繰延税金負債	—	466
固定負債合計	406	3,238
負債合計	1,321	5,031

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,337	2,361
資本剰余金	4,487	4,515
利益剰余金	△249	△1,018
自己株式	△34	△1,203
株主資本合計	6,540	4,655
新株予約権	3	11
非支配株主持分	75	58
純資産合計	6,618	4,725
負債純資産合計	7,939	9,757

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
売上高	2,622	3,388
売上原価	1,131	1,622
売上総利益	1,490	1,766
販売費及び一般管理費	1,777	2,301
営業損失(△)	△287	△534
営業外収益		
受取利息及び配当金	0	0
助成金収入	1	0
その他	0	1
営業外収益合計	2	2
営業外費用		
支払利息	0	5
為替差損	0	0
支払手数料	—	4
営業外費用合計	0	10
経常損失(△)	△285	△542
特別利益		
固定資産売却益	—	0
事業譲渡益	13	—
その他	—	0
特別利益合計	13	0
特別損失		
固定資産除却損	—	0
減損損失	—	203
関係会社整理損	—	42
特別損失合計	—	245
税金等調整前四半期純損失(△)	△272	△787
法人税、住民税及び事業税	13	17
法人税等調整額	△1	△19
法人税等合計	11	△1
四半期純損失(△)	△284	△785
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△11	△16
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△272	△768

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
四半期純損失(△)	△284	△785
四半期包括利益	△284	△785
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△272	△768
非支配株主に係る四半期包括利益	△11	△16

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△272	△787
減価償却費	171	237
のれん償却額	25	43
顧客関連資産償却費	—	35
固定資産除却損	—	0
減損損失	—	203
有形固定資産売却損益(△は益)	—	△0
事業譲渡損益(△は益)	△13	—
関係会社整理損	—	42
受取利息及び受取配当金	△0	△0
支払利息	0	5
助成金収入	△1	△0
売上債権の増減額(△は増加)	73	52
その他の流動資産の増減額(△は増加)	△1	12
未払金及び未払費用の増減額(△は減少)	51	196
未払法人税等(外形標準課税)の増減額(△は減少)	△22	△1
契約負債の増減額(△は減少)	32	11
その他の流動負債の増減額(△は減少)	△81	△126
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△0	△6
その他	4	8
小計	△33	△74
利息及び配当金の受取額	0	0
利息の支払額	△0	△5
助成金の受取額	95	0
法人税等の支払額	△19	△17
営業活動によるキャッシュ・フロー	42	△96
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△37	△31
無形固定資産の取得による支出	△398	△428
投資有価証券の取得による支出	—	△181
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	—	△1,870
事業譲渡による収入	16	—
保険積立金の積立による支出	△5	△5
敷金及び保証金の差入による支出	—	△6
敷金及び保証金の回収による収入	1	3
投資活動によるキャッシュ・フロー	△423	△2,521

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	—	2,700
長期借入金の返済による支出	△16	△102
社債の償還による支出	△3	—
自己株式の取得による支出	—	△1,165
新株予約権の行使による株式の発行による収入	64	49
財務活動によるキャッシュ・フロー	44	1,480
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△336	△1,136
現金及び現金同等物の期首残高	5,537	5,231
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,201	4,094

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

I 前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の金額の著しい変動

当社は、2022年6月28日開催の定時株主総会において、資本準備金の額の減少並びに剰余金の処分を行うことを決議し、2022年7月8日付でその効力が発生しております。この結果、当第2四半期連結累計期間において、資本準備金が1,735百万円減少し、この減少額全額をその他資本剰余金に振り替えました。また、資本準備金の額の減少の効力発生を条件に、その他資本剰余金635百万円を繰越利益剰余金に振り替えることにより、欠損填補いたしました。

また、ストック・オプションの行使による新株発行により資本金が32百万円、資本準備金が32百万円それぞれ増加しております。

これらの結果、当第2四半期連結会計期間末において資本金が2,306百万円、資本剰余金が4,456百万円、利益剰余金が△381百万円となっております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の金額の著しい変動

(1) 自己株式の取得

当社は、2023年3月22日開催の取締役会決議に基づき、当第2四半期連結累計期間において自己株式3,011,400株の取得を行いました。この結果、当第2四半期連結累計期間において、自己株式が1,165百万円増加いたしました。

なお、当該決議に基づく自己株式の取得は、2023年8月17日をもって終了しております。

(2) 第三者割当による自己株式の処分

当社は、2023年8月21日開催の取締役会決議による「株式付与ESOP信託」導入に伴い、第三者割当により自己株式456,800株の処分を行っております。信託に残存する当社株式は自己株式として計上しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間において資本剰余金および自己株式がそれぞれ3百万円増加しております。

(3) スtock・オプションの行使

ストック・オプションの行使による新株発行により資本金が24百万円、資本準備金が24百万円それぞれ増加しております。

これらの結果、当第2四半期連結会計期間末において資本金が2,361百万円、資本剰余金が4,515百万円、自己株式が1,203百万円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額(注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	AIプラットフォーム事業	AIプロダクト事業	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	2,301	320	2,622	—	2,622
外部顧客への売上高	2,301	320	2,622	—	2,622
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	2,301	320	2,622	—	2,622
セグメント利益又は損失 (△)	668	△187	481	△768	△287

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は、セグメント共通経費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額(注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	AIプラットフォーム事業	AIプロダクト事業	その他サービス事業	計		
売上高						
顧客との契約から生じる収益	2,392	500	495	3,388	—	3,388
外部顧客への売上高	2,392	500	495	3,388	—	3,388
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	2,392	500	495	3,388	—	3,388
セグメント利益又は損失(△)	599	△224	26	401	△936	△534

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は、セグメント共通経費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

従来、報告セグメントに含めていた間接経費を第1四半期連結会計期間より調整額に含めることといたしました。

株式会社スタジアムを子会社化したことに伴い、「その他サービス事業」セグメントを新しい報告セグメントとしております。このセグメントには、株式会社スタジアムで事業を展開するSaaS商材/IT商材などの営業課題において戦略戦略策定からリソース提供を行う事業等が含まれております。

なお、この報告セグメントの変更が、前連結会計年度のセグメント情報に与える影響はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

セグメントごとの固定資産減損損失の計上額は、「AIプロダクト事業」セグメントにおいて164百万円、「AIプラットフォーム事業」セグメントにおいて38百万円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

「その他サービス事業」セグメントにおいて、第1四半期連結会計期間に株式会社スタジアムの株式を取得し連結範囲に含めたことについて、取得原価の配分が完了していなかったため、のれんの金額は暫定的に算出された金額として2,284百万円を計上しておりましたが、当第2四半期連結会計期間に取得原価の配分が完了し、暫定的な会計処理が確定したため、のれんの金額を804百万円に修正しております。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

(企業結合に係る暫定的な会計処理の確定)

2023年6月30日に行われた株式会社スタジオムとの企業結合について、第1四半期連結会計期間において暫定的な会計処理を行ってまいりましたが、当第2四半期連結会計期間に確定しております。

この結果、第1四半期連結会計期間において暫定的に判定されたのれんの金額2,284百万円は、1,479百万円減少し、804百万円となっております。これは主に、顧客関連資産が1,853百万円、繰延税金負債が567百万円増加した一方、流動負債が58百万円減少したこと等によるものであります。また、条件付取得対価の確定により、のれんが130百万円減少しております。

なお、のれんの償却期間は9年、のれん以外に配分された顧客関連資産の償却期間は13年であります。